

動物飼育Q & A

【大阪です、野鳥など学校支援体制は？】

(Q) 子供が傷ついた野鳥等を学校に持ち込むこともあります。獣医師会でも野鳥ドクターがいますか。学校への支援体制はありますか。(大阪府市立小学校 教員)

(A) 開業獣医師は仕事としては野鳥を診ていませんが、多くの獣医師がボランティアの部分として野鳥や野生動物に関わっています。また自治体との約束もあるところがあります。

大阪府の場合は、(社)大阪府獣会と契約して『野生鳥獣救護ドクター制度』を実施しており、獣医師会員の協力で診療しています。

大阪での学校の動物飼育支援体制ですが、まだはっきりした約束は無いようですが、今年度から全ての市町村で獣医師会から推薦された講師を指定し、教員研修など学校に対応することしたと伺っています。ですから、まず相談したいことがあったら、教育委員会に相談してみてください。教育委員会の敷居が高いようでしたら、近くの動物病院が獣医師会に入っているかを確かめて相談してみてください。それでも話が通じなかったら、当方にご相談ください。また、府獣医師会の学校飼育動物についての相談専用メールアドレスがあります。

fujyu-doubutu@mail.goo.ne.jp

なお大阪府教育委員会は、3年前から「心の教育」の教員研修に獣医師会から講師を派遣してもらっています。その講師も大阪府獣医師会の委員長も、当研究会の会員です。また東大阪市の獣医師会は団体会員になって下さっています。

【文科省の対応は？】

(Q) 質問：学校での動物飼育の重要性は明らかですが、管理職の教育プログラムが文科省ではできないのでしょうか。(広島県獣医師会 獣医師)

(A) 管理職研修等の研修は、基本的には各県の教育委員会が研修対象や内容を決めます。文科省にはこうしなければならぬという命令系統はないと思います。従って、各県、政令都市ごとに獣医師会が働きかけることが必要だと思います。指導課の指導主事が理解しても管理職研修の担当は別の部署なので難しいのです。要するに教育の世界では思いのほか地方分権が進んでおり研修内容まで上意下達という訳にはいかないのです。(鳩貝)

【ウサギの飼育小屋について】

(Q) 幼稚園です。小屋(約3メートル四方・地面は土)で、雄雌を飼ったところ、土の中の巣穴から可愛い毛も生えそろった子ウサギができました。園児たちも毎日成長の様子を楽しんでいましたが、2週間ほどで全部死んでしまい、父兄の意見では「栄養不足」ではないかと言うことで、餌も見直したら、また出産しました。が今度も、3羽とも死亡・・・園児たちの悲しむ表情が胸を突き刺します。コンクリートに改築して『かじり木』や『乾草』などを敷いてやれば大丈夫でしょうか?清潔さを保つために排水口は設置するべきでしょうか?

(A) 小屋の清潔の維持は大変ですので、幼稚園では、ウサギ用のケージで飼う方が良いでしょう。ケージなら園児が楽に掃除できるし、長期休みのときも、ケージごと保護者に預かってもらえます。

また、暑い時期や寒い時期、ケージごと快適なところに動かす事が出来ます。小屋だと、小屋を涼しい所に移すことは不可能です。なお、大事なことは、オスと雌を別々のケージに置いて、別々の時に外に出して遊ばせることで、繁殖制限をしてください。ケージ飼いで、朝夕30分ほど大きなサークル、あるいは庭、教室などに放して遊ばせれば骨は弱くならず健康に暮らせます。ウサギは繁殖制限をしないと年に8回も子を産むことがあると、成書には書いてあります。つまり、子どもが育つようになれば、5ヶ月ほどで子どももお産をはじめます。それは大変なことになります。親はまたすぐに産みます。ちょっとたったら孫も一緒に産むようになります。妊娠期間1ヶ月、離乳まで2ヶ月ですから、すぐに50~100匹にもなってしまい、共食い、喧嘩、えさの調達之苦など地獄が待っています。管理上は、繁殖制限をして、子どもが欲しかったら年に一度オスと雌を一緒にさせて子どもを採って、生後2ヶ月をすぎたら全てもらい手にもらってもらうのが良いでしょう。

以上の理由から、ケージで丁寧に飼育になることをお勧めします。

実はケージは掃除もとても楽に出来ていて、児童の身近におけますので、児童への効果は抜群です。動物は管理をすることが必要です。

【飼育舎のインコを飼う意義について】

(Q) インコとウサギを一緒に飼っていますが、インコはいつも天井の方にいるだけで触る事もできず、インコを飼う意義があるのでしょうか？そんな飼い方で良いのでしょうか？

(A) 飼育舎の広さもありますが、インコが小屋の上の方で飛び回り、ウサギがいるため、下に降りて来られないのでしょうか。子ども達にとってどうなのかを見極める必要がありますが、一般的に言えば、外で飼うより身近で飼った方が意義は大きくなるでしょう。

インコや文鳥のような小鳥は人になれて感情のやり取りができる種類です。教室内あるいは校舎内で、ケージ飼いで顔を見つめられる距離で飼育すれば、見つめたり名前を呼べば、頭を膨らませて、羽をパタッと、羽ばたきして甘えます。

日常のこととして、そのような感情のやり取りができれば、子どもにその動物に対する愛着が生まれます。そうやってこそ、その動物を心配したり、そのために掃除を頑張ったり、あるいはその鳥になにかあったら本気で心配し、友達と一緒に工夫し、もしも死んだら、皆で心から悲しむことが出来ます。そうやってこそ、教育的な意義が出来ます。ぜひ、学校を説得して小さな鳥かごを買って、教室やオープンスペースあるいは玄関辺りの廊下、校長室、教員室などで飼ってみてください。驚くような働きをしたいと思います。

【ウサギのお尻の糞塊をとるには】

(Q) ウサギのお尻に、いつも便がこびりついているので、どうしてやれるのでしょうか？

(A) 動物は健康なら、自分の体をきれいに保ちます。ウサギも健康ならころころとした糞をして、体につくことはありません。ただ時々、ビタミン豊富な盲腸から出る便が、下痢のように見えることがあります。が、これはウサギが肛門から直接食べているようです。つまり、健康なら糞は肛門に付着したままにはなりません。

ですからそのウサギは診療が必要だと思われます。良くあるのは、ゴールデンウイークなどに水が足りない時、体調を崩して下痢をしますが、すでに体をきれいに出来なくなっている時です。どちらにせよ、治療が必要です。

なお、肛門部についての糞は硬い塊になって固着していますので、引っ張ってとろうとすると、皮膚が破れます。糞を除去するときは、お湯でゆっくり洗って、糞を柔らかくして、指で洗い落と

して下さい。その後、タオルで水分をとって、寒い時期ならドライヤーをちょっと遠くからやんわりかけて乾かして下さい。

このような糞を放置しておく、季節によっては、ハエが卵を産み付け、ウサギを我が子の餌にしてしまうことがあります。このような事例は特にゴールデンウイークに見られます。世話のあとには、必ず動物を抱いて体中をなでて見てあげるようにしてください。

(Q) 来年より長男を通わせる予定の幼稚園を見学に行きましたら、園の出入り口の脇にうさぎ

(一羽)のケージがポツンと置いてあり、登下園の他、少し離れた園の施設に行き来するため頻繁に園児達が入り出して、その際ちょっとウサギにちょっかいを出したりするのです。私はそのウサギがなんだかおびえているように見え、こういう扱いは教育上もよくないのでは？と思ったのですが、うさぎというのはこういう環境でも大丈夫なのでしょうか？

(A) それで大丈夫かどうかは、ウサギがどのような顔をしているか、先生方がどのような思いで飼っているか、などの事情がわからないままでは、なんとも言えません。

もしも直接メールでどこの話しか教えて頂けるなら、近くの獣医師さんに お伺いしてみます「イモリからの病気が心配です」

(Q) 知的障害校でアカハライモリを飼育・子どもは時々餌やりをしたり手にのせたりしている。衛生的にも大丈夫なのか心配です。

(A) 知的障害だから特に免疫力や抵抗力が弱いということがあるのでしょうか？そのお子さんたちが、エイズ、あるいは白血病、または臓器移植などで、免疫作用を抑える薬を飲んでいないなら特に衛生面の心配はないでしょう。

ただし以下の普通の管理に気をつけてイモリの健康に気をつけること。①水槽の水の管理・つまり毎日新しい水に取り替える(水道水ならくみ置きや塩素を抜く処置後)。②餌の食べ残しを放置しない。③水温が上がりすぎないように温度管理に注意する。特に水替えをしないと、イモリの糞から腸内細菌がでて、水の中で増える一方になり、イモリにとっても不潔になるでしょう。

なお、注意すべきは、子どもがイモリを口にくわえないようにさせて下さい。お尻の穴までくわえては、腸内細菌が沢山入ってしまうかもしれません。その子がイモリをくわえる心配もなく、ただ手に置いて遊ぶのなら、問題はないでしょう。

そして何の時でも同じですが、遊びおわったら必ず手をあらう習慣をつけさせましょう。